

編集後記

高校生の頃に教科書で読んだ坂口安吾の「ラムネ氏のこと」が今も心に残っている。久しぶりに読みたくなって探したらウェブの青空文庫にあった。漱石の坊ちゃんを彷彿とさせるユーモラスな文章でかつ含蓄に富んでいてやはり面白い。

ラムネ氏とは、安吾と友人らの間で話題となったビー玉を炭酸で持ち上げてフタにするのを発明した人のことである。ラムネ玉のみならず、我々の周りにはあるものは大概誰かが発明したものだ。現在我々がフグ料理に舌鼓を打てるのも、胃袋や肝臓、臓物の一つ一つについて各々の訓戒を残し、果てた幾百十の頓兵衛のおかげだ。愛や恋はかつての日本では邪悪な欲望とされていたが、これに反抗を試みた少数の戯作者たちもまた、ラムネ氏であった。フグは食うなと遺言した太郎兵衛や、自らの採ったキノコに当たり、でも何も言い残さず素直に往生した茸名人、あるいは恐れて食べない者は、ラムネ氏ではなかった。

ラムネ玉を発明したり、色恋のざれごとを小説や歌にしたりすることは、ちっぽけな、滑稽なことかも知れない。

「然し乍ら、結果の大小は問題でない。フグに徹しラムネに徹する者のみが、とにかく、物のありかたを変えてきた。それだけでよからう。それならば、男子一生の業とするに足りるのである。」この最後のメッセージに、若かりし頃の私は痺れた。

実は今でも痺れている。何かに徹して物の在り方を変えるというのは、まさに我々研究者の仕事ではないか。かつてフグの胃袋や肝臓について実験を行い、その成果を子孫に伝えた頓兵衛たちは今、プラズマの揺動やダイバータでの原子分子の発光、ブランケット内の熱流動、低放射化材料などなどを研究し、論文にして知識を積み上げている。

何の意味があるのとか、それは無理だとか、IFが低いとか無いとか、そんな太郎兵衛からの批判は気にしないでいい。ただひたすら追求することでのみ、モノゴトは変えられる。それだけで十分、男子（女子も）一生の仕事として足るのだ。

恐れず進め、21世紀のラムネ氏たち。

(宮澤順一)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	小森 彰夫	副 会 長	永津 雅章 (推薦委員長: 研究助成, 男女共同参画委員長)	吉田 善章 (推薦委員長: 学会賞)
常務理事	室賀 健夫 (総務委員長)			
理 事	浅野 克彦 内野喜一郎 草間 義紀 (広報委員長) 白神 宏之 (支部・地区研究連絡会委員長) 波多野雄治	安藤 晃 小野 靖 久保 博孝 白谷 正治 (研究部会連絡委員長) 福山 淳 (年会運営委員長)	上田 良夫 甲斐 俊也 (財務委員長) 佐々木浩一 (企画委員長) 豊田 浩孝 (編集委員長)	
監 事	市村 真 森田 純子			

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 豊田浩孝(名大) 副委員長: 波多野雄治(富山大)

エディタ: 金子俊郎(東北大), 坂本瑞樹(筑波大), 中村祐司(京大), 長友英夫(阪大), 小西哲之(京大) 佐々木浩一(北大)

編集委員: 安堂正己(量研機構), 石澤明宏(京大), 稲垣 滋(九大), 太田貴之(名城大), 大西直文(東北大), 小田昭紀(千葉工大), 小田卓司(ソウル国立大), 陰山 聡(神戸大), 加道雅孝(量研機構), 川崎仁晴(佐世保高専), 齋藤和史(宇都宮大), 清水昭博(核融合研), 白石裕之(大同大), 須田善行(豊橋技科大), 高橋俊樹(群馬大), 近田拓未(静岡大), 仲野友英(量研機構), 沼田龍介(兵庫県立大), 比村治彦(京都工繊大), 松岡彩子(JAXA), 宮澤順一(核融合研), 森 芳孝(光産業創成大学院大), 森本泰臣(日揮), 八木重郎(核融合研), 八柳祐一(静岡大), 山本 聡(京大), 余語覚文(阪大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第92巻第4号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円(税別)

印刷 株式会社荒川印刷

2016年(平成28年)4月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。